

がん探知犬

4月25日、読売新聞の編集手帳を全文紹介いたします。

【いまの京都府、丹波の国で犬が猪(イナグマ)を食い殺したところ、猪の腹から勾玉(まがたま)が出てきた。飼い主が朝廷に献上したと、『日本書紀』(第八)にある。犬の名を「足往」という。猪の体内に宝物のにおいを嗅ぎ取ったのか、どうか。正史に名前の刻まれる榮譽に浴したのだから、大変なお手柄なのだろう。足往君も、しかし、マリ

ンさんには兎を脱ぐに違いない。◆雌のラブラドルレトリバー、10歳である。子宮がんなど婦人科がんでは、マリオンが患者の尿からはほぼ確実にがんを嗅ぎ分けたことを日本医科大学千葉北総病院、宮下正夫教授のグループが判別試験で確認したという。◆自覚症状のない早期がんも嗅ぎ分ける。マリオンを感じ取るにおいの物質を見つけない早期がんも嗅ぎ分ける。マリオンを感じ取るにおいの物質を見つけない早期がんも嗅ぎ分ける。マリオンを感じ取るにおいの物質を見つけない早期がんも嗅ぎ分ける。

【小池光。わが愚鈍な鼻にさえ、花の香りは響く。春爛漫の花の季節、濃縮ジュースを薄めずに飲むのにも似た苦痛がありはしないか…と、誉れ高き「犬類」の鼻をふと案じる。】

社会面でも報じられていて、『判別試験では尿1ミリの入った試験管を木箱に入れ、その前を研究者に連れられて歩く。がんのにおいを感じた時は箱の前で座り、そ



エヴァーグリーン・ドッグ・フィールド
代表 森 一彦

れ以外は通り過ぎるように訓練されている。子宮頸がんや卵巣がんなど5種類の婦人科がん患者43人の尿では、マリオンはすべてがんと判定。子宮筋腫など、がん以外の婦人科疾患29人の患者の尿では、1人分を誤まってがんと判定したが、それ以外は間違わずに嗅ぎ分けた。

大腸がんは尿でなく呼吸を使い、9割以上の精度で嗅ぎ分けられることを九州大グループがマリオンで確認。昨年1月、英医学誌に発表された。宮下教授によると、乳がんや胃がんの判定試験も順調に進んでおり、それぞれ6月の日本乳癌学会と9月の日本癌学会で発表する予定。」と報道されております。

One! Nyan! 今月号の読書日記で紹介した「犬から見た世界」で、犬の嗅覚についてさわりの部分を紹介しましたが、同書の中にも病気の匂いについての記述があって、多くの医師が、さまざまな感染症、糖尿病、癌、あるいは統合失調症さえも、それぞれの病気特有の匂いに気づくようになったと述べています。そこから医師たちは、良く訓練された犬に頼めばさらに精密な診断をしてももらえるかもしれないと考えたのです。こうして研究者たちは、

癌におかされた不健康な組織が出す科学的匂いを犬に認識させる訓練を始めたのです。訓練そのものは単純なもので、癌患者とそうでない患者について、それぞれ少量の尿サンプルを取るか、試験管の中に息を

吐かせて排泄された分子をとらえる方法で匂いを集めます。犬が癌患者が発する特有の匂いを探知して、その隣にすわるか伏せるかすればおやつを与え、間違えれば与えない、それだけです。このような研究が進めば、私たちに腫瘍が出来たとき、犬達はそれを知らせてくれるようになるのでしょうか？確かに私たちの飼犬にもその能力は存在するのですが、人も犬もほど訓練されない限り、その能力を引き出すことは至難の技といえるようです。病気の匂いではありませんが、恐怖の匂いも確かに存在するようです。例えば犬嫌いな人が、近づいてくる犬に対してストレスを感じると、自然に汗をかき、その汗が人の匂いを運びます。もう一つは危険から逃げようとする時必要とされるアドレナリンが分泌されて、犬はこれも嗅ぎ取ることが出来ます。他にも心拍数の変化や呼吸の速さなど、恐怖を感じた時の生理的変化を犬が感じ取ってれば、犬が私たちの不安や恐怖を感じ取るといふことはおおいに考えられることです。

犬たちは我々が発する病気の匂いや恐怖の匂い、喜びや悲しみの匂いまで我々の情動を匂いとして嗅ぎ取ることが出来るのです。

遊ぶ 学ぶ かかり合う...Wan倶楽部

Evergreen Dog Field

ドッグラン・ドッグカフェ・飼い方相談

福島県郡山市熱海町高玉字抜山1-1 磐梯熱海ICから約6分

☎024-994-0811 エヴァーグリーン・ドッグフィールド [検索](#)

福島県19郡保健第21号・訓練第5号(有) Evergreen Dog Field
登録年月日H19年4月6日 有効期限の末日H24年4月5日 動物取扱責任者 森一彦